

ヒヤリ・ハット事例調査実施要領

(1) 調査目的

1件の重大事故の背景には29件の軽微な事故があり、さらに300件のヒヤリ・ハットがあるというハインリッヒの法則と言われるものがある。

労働災害を更に減少・撲滅させるためには、このようなヒヤリ・ハットの段階での危険の芽を摘むことが重要である一方、事例及び再発防止策等が共有されないために、異なる企業で同様な原因による事故が発生していると考えられる。

今回の調査では、職種ごとに専門工事業団体を通じて各企業よりヒヤリ・ハット体験事例・再発防止策を収集し、分類・整理の上、データベースを構築・公表することで技能者の労働災害を未然に防止するのに役立つ事を目的とする。

(2) 調査対象・方法

ヒヤリ・ハット調査票を、鉄筋工事業、型枠工事業、とび工事業、屋根工事業、内装仕上工事業の5職種、以下の専門工事業団体の所属企業に送付し、報告書を回収、集計した。

鉄筋工事業：(公社) 全国鉄筋工事業協会

型枠工事業：(一社) 日本型枠工事業協会

とび工事業：(一社) 日本鳶工業連合会

屋根工事業：(一社) 全日本瓦工事業連盟

内装仕上工事業：日本室内装飾事業協同組合連合会、(一社) 全国建設室内工事業協会

(3) 調査対象期間

平成28年11月に調査を実施し、それ以前の体験事例も含め集計した。

(4) 調査内容

①体験者の年齢、経験年数、②体験日時、曜日、③体験場所、④作業の項目・内容、⑤ヒヤリ・ハットした状況、⑥再発防止・改善策、⑦略図、⑧原因(その時の心身状態)、⑨ヒヤリ・ハットにとどまらず労働災害となった場合の事故の型の各設問について回答を求めた。

(5) 回収状況

5職種で計494件の調査票を回収した。